

多面的・多角的に考察できる生徒の育成を目指した NIE の推進

宮崎市立木花中学校

教諭 加藤 義暁

1 活動初年度の活動方針と実践事例

本校は平成29年度からの2ヵ年、実践指定校として取り組むことになった。活動に先立って生徒の実態を知り、テーマを設定するために1・2年生(計201名)を対象にアンケートを実施した。その結果、「新聞を毎日読む」「新聞をときどき読む」生徒はあわせても3割を切り、逆に「新聞をほとんど読まない」「新聞をまったく読まない」生徒が大部分を占めていることがわかった。また、実際に新聞記事を読ませた感想をみても新聞になじみが薄いことがわかる。しかし、新聞に対して興味を示す生徒が多いこともわかった。

○ 活動当初の生徒の実態 (生徒感想より抜粋)

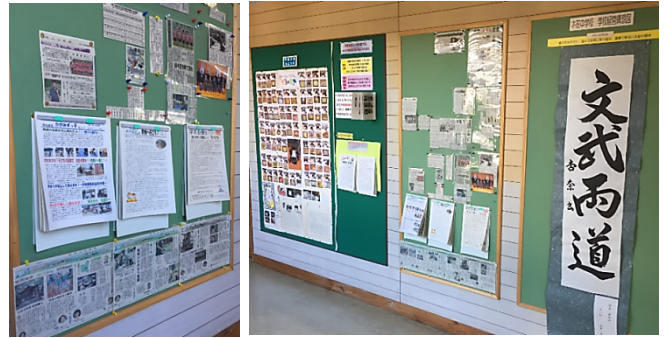
- ・ どこからどう読めばいいのかよくわからなかった。難しかった。
- ・ 難しすぎて意味がわからない。自分から読むことはこの先きっとない。
- ・ 新聞を相手が読みやすくするのは大変そう。
- ・ 思っていたより、分からない言葉が多かったりして、文の内容がしっかりよみとれなかった。難しかった。
- ・ いろんな語句が難しすぎて意味がわからない。
- ・ 久しぶりに新聞を読んでみると、読みやすかったです。見出しを太く書いたり、写真を使っていて、工夫されているなど感じました。
- ・ 日本の新聞なのに外国のことが書かれていることをはじめて知った。
- ・ 知らないことがたくさんあってもっと日本や世界について知らないといけないと思った。
- ・ 今のことだけじゃなく、前のこともくわしく書かれていて分かりやすかった。
- ・ ニュースでやっていたことなど、知っている用語が出てくるのが楽しかった。
- ・ なんとなく内容は分かるけど、難しい言葉がたくさん並んでいて、その言葉の意味をいうとなるといえないなと思いました。
- ・ 読み取るのが難しいと感じましたが、とって勉強になると思う。
- ・ TVではだいたいわかったけど、新聞は、何回か読んだら、くわしく分かった。くわしく知りたいときは、新聞の方がいいなと思った。
- ・ 知らなかったことが多くて、ちょっと難しいけど、ニュースよりかていねいに書いてあるから時間があるときは新聞のほうがいいなと思いました。
- ・ 難しい言葉がたくさんあって調べながら読みたいと思った。

そこで、今年度の実践テーマを「新聞を通して、自分の世界をひろげよう」として、以下の視点A～Dを設定し実践した。実践の4つの視点は、「視点A 社会に触れる」「視点B 事実を正確にとらえる」「視点C 社会をみつめる視野を広げる」「視点D 自分の主張を伝える」である。特に今年度は、新聞を自分の身近なものとして捉えながら多面的・多角的に社会について考える基礎を養うことを目的に、視点Aに重点を置き、新聞を身近な情報ツールとして活用できるスキル(情報活用能力)の育成を図った。

(1) 実践事例Ⅰ 「きばなの風コーナー」(視点A)

木花中学校に関する記事を切り抜き、掲示板に掲示する。木花地区の記事、在校生・卒業生や校区内の小学生の記事などを掲示することで、新聞の情報を身近なものと感じさせ、賞賛の場、紹介の場とすることができた。また、校区内の小学校3校の学校便りを併せて掲示し、地域の情報を共有させた。校長室前の廊下にその他の生徒作品、学校の活動などとともに掲示している。

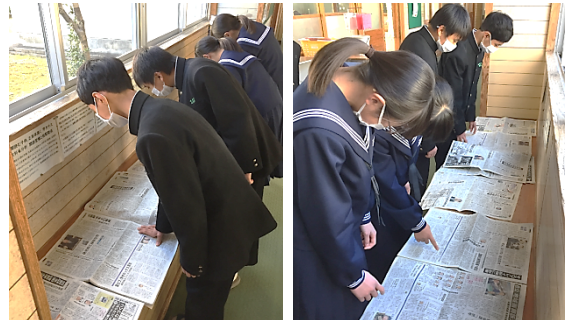
「きばなの風コーナー」



(2) 実践事例Ⅱ 「いつでも新聞コーナー」(視点A、C)

学級前の廊下で1週間分の新聞を休み時間などいつでも誰でも読めるように設置した。生徒はちょっとした時間に興味のある記事に目を通したり、後述の1分間スピーチの記事探して活用できるよう、読み込んでいる姿が見られた。右の写真は、授業中に紹介した記事がどこに載っているかを探している様子。

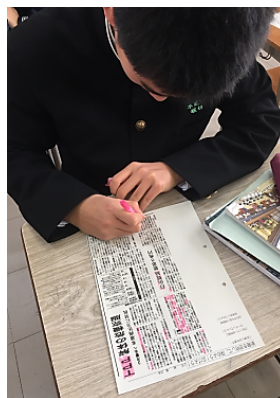
「いつでも新聞コーナー」



(3) 実践事例Ⅲ 「1分間スピーチ」(視点A、B)

新聞記事の要約を主な目的とした1分間スピーチを行った。学級でのガイダンスを実施後、帰りの会で1日1名計画的に行った。また、スピーチとスピーチ原稿の評価を4段階で生徒に行わせ、その評価理由を発表者にフィードバックしスピーチ改善の一助とした。生徒の習熟度にあわせ、個別に視点A、Bの「要約」「感想」から視点C、Dの「記事に関して調べたこと」「記事についての自分の考え」へと、スピーチ内容を発展的に指導した。

記事の要約に取り組む生徒



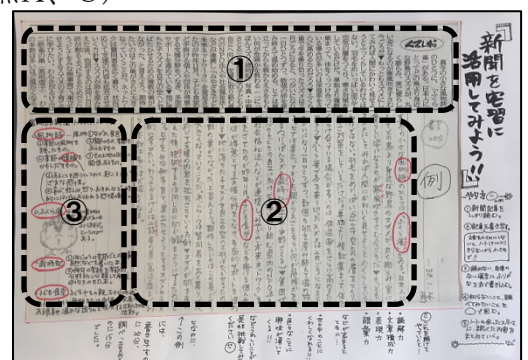
1分間スピーチ中の生徒



(4) 実践事例Ⅳ 「コラムを活用した家庭学習の推進」(視点A、C)

幅広い知識の獲得、文章構成力、語彙力などの向上をねらい、宅習を用いた学習方法を提示した。取組手順は、①コラムを貼る、②書写する、③分からない言葉の読み方や意味を調べ、まとめる。他教科との学習のバランスを考慮して、週に1~2回程度の取り組みをすすめた。継続して取り組んでいる生徒は、「自分の知識が広がっている」「集中力がついた」「社会への関心が高まった」などその効果を実感している。

NIE宅習ガイダンス資料



(5) 実践事例Ⅴ 「社会科歴史的分野でのN I E」(視点A、D)

本時の目標

- ・ 朝鮮通信使の記事を通して、日本と朝鮮半島の歴史的なつながりの認識を深めることができる。
- ・ 見出しを考えることで、新聞への興味を高め、よりよい表現方法を考えることができる。

学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び評価	資料・準備
導入	1 新聞の見出しから、どのような内容の記事か推測する。 2 実際の記事内容を確認する。 3 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の新聞記事の見出しを紹介し、推測で自由に記事を考えさせ、書かせる。 ・ 記事の内容・語句について補足説明を、生徒からの質問をもとに、簡潔に行う。また、数紙の新聞の見出しを紹介し、新聞紙面における見出しの大切さをわからせる。 	TVモニター パソコン ワークシート 新聞
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 朝鮮通信使をもっと知りたくなる、記事の主見出しと袖見出しを考えよう！ </div>			
展開	4 記事を読む。 5 見出しを考える。 6 発表する。 7 実際の見出しを見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見出しを考えさせる「朝鮮通信使」の記事を読ませる。また、既習内容説明と補足説明を行い、生徒のイメージを膨らませる。 ・ 主見出しから考えさせ、できた生徒は袖見出しを考えさせる。 ・ 数名の生徒に発表させる。また、賞賛の場とするために発表者以外の生徒に感想を述べさせる。 ・ 同じ内容の記事を3紙紹介し、さまざまな表現方法があることを気付かせる。 	プリント ワークシート TVモニター パソコン
まとめ	8 まとめの話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を正確に伝えるためには、事実を正確にとらえて、特に何を伝えたいか明確にして工夫することが大切であることを気付かせる。 	

○ 授業後の生徒感想 (抜粋)

- ・ 見出しを考えているうちに、朝鮮通信使のイメージがどんどんわいてきてもっと細かいことまで知りたいと思った。
- ・ みんなの見出しを聞くのがおもしろかった。私は主見出ししか考えられなかったけど、袖見出しも考えてみたいと思った。
- ・ 短い言葉で表現するのがこんなに難しいとは思わなかった。でも楽しかった。
- ・ ひとつの記事の見出しだけでもこれだけ大変だったんだから、1日分の新聞を作るのがどれだけ大変か、よくわかった気がする。

2 実践後の生徒の意識と行動の変化

実践を通して生徒の変容を知り、成果と課題をつかんで次年度の取り組みに生かすために、職員の視点から生徒の意識と行動の変化をまとめた。

- 新聞に親しむ場が設けられたことで、生徒が新聞に目を通す機会が増えてよかった。
- 新聞を読むことに慣れ、苦にする生徒が減っている。
- 家庭でも新聞に触れる生徒が増えている。
- 友達同士で教え合う姿がみられた。
- 「先生が一番気になる今日の記事はなんですか？」と生徒から新聞の話をしてくる生徒が増えてきた。
- 授業でニュースを話題に取り上げた時、今までは何それ？とぼかんとしていたが、それ知ってる！と話にのってくる生徒が増えました。
- 社会問題についての会話が増え、世の中の出来事について自分の意見をもつようになった。
- 広い視野で、事実の背景や原因などまで考えて、自分の意見を言える生徒がいる。
- 他の人の意見を聞き、自分の意見を見つめなおせるようになってきている。
- 自発的に取り組めない生徒がまだまだ多い。
- 生徒の習熟度に差がみられ、個に応じた指導の難しさを感じました。
- 自分の意見を言えるようになってきているが、そこに自分がどう関わっていけば良いのか考えられていない。
- 難解な語句に対する理解、複雑な社会情勢についての解説などに、十分な時間が確保できているとは言えず、偏った知識・思考になる危険性が感じられた。
- 教師側から考える、表現する機会を設けることは必要だが、生徒が企画するなどの生徒主体の取組があってもいいのではないかと思います。

3 成果と課題

今年度は、新聞に親しませる、身近な情報源という意識を高めることに重点を置き実践してきた。実践を通して、新聞の構成にも慣れて抵抗感も薄れてきた。情報の読み取りや知識の広がりが見られ、また世の中に対して一面的、断片的だったものの見方や考え方が少しずつだが多面的・多角的な見方や考え方になってきている。しかし、生徒の意識にはどこか「別世界の話」という感覚があり、自分との関わりがまだ希薄であると感じる。そこで次年度は、今年度の取り組みを継続しつつ、授業における新聞の活用を増やしていきたい。新聞資料の選定、学習課題の設定、授業形態の工夫に重点を置き、生徒の主体的な学びの場を設定したい。世の中と自分のつながりを意識し、多面的・多角的な考察による批判的思考力の育成に重点をおいた実践で、自ら積極的に世の中に関わる態度を身に付けさせたい。